

今日のキーワード「訪日外客数」は春節の影響で増加（日本）

日本を訪れる外国人旅行者の数（「訪日外客数」）を知るには、日本政府観光局（JNTO）が発表する「訪日外客数」が参考になります。毎月下旬に、前月の「訪日外客数」の多い世界20カ国・地域の推計値が公表されます。2016年は2,404万人と、年間で初の2,000万人を突破しました。安倍政権の成長戦略「日本再興戦略2016」では、2020年には「訪日外客数」を4,000万人とする目標が掲げられています。

ポイント1

1月の「訪日外客数」は約230万人、単月では過去2番目の多さ 1月下旬からの春節休暇に伴い、中華圏の国・地域から増加

- JNTOが15日に発表した1月の「訪日外客数」（推計値）は、前年同月比+24.0%の229万5,700人となり、1月として過去最高を更新しました。単月としては、2016年7月（229万6,451人）に僅差で迫り、過去2番目の記録となりました。今年は旧正月が1月28日となり、これに伴う春節の連休が1月下旬から始まったことなどが「訪日外客数」の増加の主な要因となりました。

【2017年1月「訪日外客数」上位10カ国・地域】

国・地域	総数（人）	伸び率（%） （前年同月比）
中国	630,600	32.7
韓国	625,400	21.5
台湾	350,800	9.3
香港	185,500	48.4
タイ	65,200	6.7
シンガポール	20,400	35.2
マレーシア	34,500	73.9
インドネシア	22,500	63.8
フィリピン	26,400	40.1
ベトナム	21,600	46.0

（出所）JNTOの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2

上位20カ国・地域全てで増加 東南アジアでも高い伸び

- 1月の「訪日外客数」の伸び率を国・地域別で見ると、発表されている上位20カ国・地域の全てで増加しました。春節の連休があった国・地域では、香港は同+48.4%、中国は同+32.7%、マレーシアは同+73.9%、シンガポールは同+35.2%となるなど、高い伸びとなりました。
- このほか、インドネシアが同+63.8%、ベトナムが同+46.0%、フィリピンが同+40.1%超となるなど、訪日旅行プロモーションの効果などから、東南アジアからの訪日客増も目立ちました。



今後の展開

2月は春節休暇の影響剥落から増勢は緩やかになる見込み

- 2月には、今回大幅な「訪日外客数」の増加が見られた国・地域の多くで春節の連休が終わっているため、「訪日外客数」の増勢は緩やかなものとなりそうです。一方、近年はウィンタースポーツや雪遊びなどを目的とした訪日が増加傾向にあることや、引き続きクルーズの需要も増加していることから、これまでの訪日旅行プロモーションとの相乗効果により、訪日需要を下支えすると思われる。

ここも チェック!

2017年 2月13日 「街角景気」は米新政権へ懸念の声（日本）
2017年 1月27日 今日から「春節」休暇（中国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。